

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070300310		
法人名	医療法人共和会		
事業所名	グループホーム塩田		
所在地	上田市中野29-2		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	平成22年7月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070300310&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市市上13-6		
訪問調査日	平成22年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が、自宅に近い住み慣れた地域で同法人の充実した医療による健康管理がなされ、隣接する畑で野菜や花作りを楽しみ、行事やドライブで季節を感じられる生活を共に送って頂ける様努めています。また音楽療法を取り入れ、情緒の安定と意欲を引き出し、一人ひとりのペースや個性を活かした支援に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

塩田平は多くの文化財の残る地域で「信州の鎌倉」と呼ばれている。施設は、この塩田平の中に位置し、付近には別所線塩田町駅、中学校、小学校・保育園等が存在している。医療法人共和会は、この地域に病院を開院し、医療を架け橋とし、地域の高齢化社会への課題に対応すべく事業を展開してきた。その為、老人保健施設やグループホームは県内でも早期より取り組みサービス提供をしてきた。地域課題を察知し早期対応する法人の姿勢は現在も受け継がれ、変化するニーズやサービスへ取り組み、求められる施設のあり方を学び実践している。グループホーム塩田で取り組まれている音楽療法を取り入れたケア、施設サービスの限界を認識しつつ真摯に利用者に向かい利用者から学ぶ姿勢は、こうした法人の歴史的背景に裏付けられている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な住み慣れた場所で、安心してゆったりと住み続ける事を目的として、独自の理念を職員全員で見直し作り上げ、日々努力している。 経営理念として「寄り添う」「付き合う」「断ち切らない」地域の方々と「共に考え共に築く」なじみの場所で暮らし続ける事を支えていく。	本年度にかけて、法人理念とは別に事業所独自の理念『「寄り添う」「付き合う」「断ち切らない」地域の方々と「共に考え共に築く」なじみの場所で暮らし続ける事を支えていく』を構築した。職員全員で関わって作り上げたため、職員間での共有は充分図られている。また、利用者とも共有するために、今後は分かりやすい場所に掲示を行う旨を伺った。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	まだまだ地域との隔たりは大きいですが、個々にはその他の地域との交流はある。全員共に交流することはまだ少ないが、機会を設けることに努力している。	近隣の保育園や小中学校の行事への参加や、地域ボランティアの受け入れなど地域との交流は盛んである。また、地区の健康推進委員の認知症に関する学習会など、音楽療法の指導や実践など、自らの知識を地域に還元する活動も行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年一回の病院祭では、地域の方々へ施設の案内やバザーを行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々との繋がりや周知していただくきっかけの場として、又皆さまが求めている事や意見等を伺う事ができる機会を多く持つよう努め、サービス向上につなげていきたい。	運営推進委員会は、隔月で開催されている。会議だけではなく、委員も日中活動に参加し、実際のサービス体験や利用者とのコミュニケーションがあるため、意見交換も充実した内容となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ連絡を取って行き来はしている。今年度より運営推進会議を偶数月に開催し、これを機会に担当者のアドバイスを受け、密な協力関係を築けるようにしていきたい。	個別ケースについても、市の担当者との連携が図られ、他機関との調整やアドバイスを含め協力関係にある。また、運営推進委員会などから実際のケアに対する理解も得られ連携を深めている。	

外部評価結果(グループホーム塩田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で取り組んでいる。しかし立地条件から玄関はやむを得ず施錠しているが、開放感をもたらす様に職員の目が届く時間帯は極力施錠しないよう心がけている。	立地条件から、出入口の施錠は行わずを得ない状況である。しかし、鍵をかけるケアの大切さを職員は理解しているため、時間を決めて玄関などを解放し、拘束感の無いように努めている。	立地条件で施錠はやむを得ないかもしれないが、接遇研修等を行うことにより、ケアの質を高め、開放感の向上に努めることが望まれる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員の問題として、利用者に最適なかかわりを持つように話し合っているが、再度学ぶ機会を持つよう計画している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に積極的に参加しているが、職員全員が理解をする必要があると考えている。その上、利用者が必要が生じた場合、支援をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得できるよう十分な説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活相談員、ご家族、ボランティアなど来訪者の意見を参考にしている。	利用者や家族が意見を出しやすいような職員との関係づくりに努めている。また、家族には運営推進委員会にも参加していただきそこの意見を反映するように努めている。どのような意見も真摯に受け止め、職員会議で話し合い改善を目指している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を設け、その時に意見を出してもらっている、又、必要に応じ緊急会議を開催したり、日常的に問題がある場合も随時意見を出してもらっている。	職員会議は、意見の出しやすい雰囲気で行われている。また、緊急の利用者の受入などに関しても多くの職員からの意見を取り入れるために、会議を招集することもある。	管理者と職員との個別面談による、労働環境・条件に関する意見の把握に努めることが望まれる。全体的な場ではなく、個別対応により、職員との関係性の向上に繋がる。昨年度は実施されていた様子であり、継続して取り組むことが求められる。

外部評価結果(グループホーム塩田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>キャリアパス制度の試験導入に参加して今後の取り組みに向け、当法人の規定を考慮しながら検討中。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>積極的に参加出来る機会の確保をし順番に研修や地域の中のG・H勉強会に出席してもらっている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在県の連絡会の働きかけによる相互評価事業に参加し、積極的にフレンド会、ACS等の研修や他G・Hへの相互訪問活動を通して質の向上に努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族からの十分な情報提供をしていたり、利用前に利用者様と家族での見学及びお試し期間を作り、少しずつ慣れていってもらい、安心感を持っていただく様努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>十分に気を配って対応している。時間をとり都度の対応にも心がけている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>病院、老健など併設機関の協力を得ながら、又他施設との連携を密にして、本人の希望に添えるようにしている。</p>		

外部評価結果(グループホーム塩田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人の出来る力を引き出し、職員が教えていただきながら生活を共にし寄り添っていくという考えに立ち、お互い様の関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止められる関係づくりが出来ている。又、時間の許す限り、ご本人と共に気楽に過ごしていただける様、365日ホームを開放している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の状況に個人差があるが、出来る範囲内での支援をしている。	以前美容師の指導をしていた利用者のお弟子さんが継続的に関わりを持って関わっていただいたり、入所者の姉妹とのふれ合いの場を設定したりと、個別の状況を十分に把握し、馴染みの継続に取り組まれている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関係を観察し、テーブルの配置や入浴の順番等に配慮して楽しく過ごせるように支援をしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の生活に困惑してしまわないように、サービスが終了しても相談に応じ、希望に添えるよう支援をしている。又、どの職員にも気さくに話ができるように、窓口を広くしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が言葉にした思いや希望、表情や動作を敏感に察知し、生活に反映させている。	ケース記録には、本人の言葉や思いが省略されることなくそのまま記載されている。言葉や行動の意味をその場で理解すると共に、記録内容からフィードバックすることで、本人の思いを把握する努力をしている。	

外部評価結果(グループホーム塩田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を知る事で、なるほど、そうだったのかと理解できる場面が多々ある。しかし、まだ情報不足な面があり、全ての利用者の把握はしてない。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートを活用し、生活記録から一人ひとりの一日の様子を報告し、職員全員が利用者の現状把握に努める。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や職員が主になっており、家族や他の必要な関係者との連携がなかなかとれず、事後報告となってしまう。アセスメントを含め職員全員で意見交換やアイデアを反映させながらモニタリング、カンファレンスを行っている。	利用者や家族の思いを、職員全員で受け止め、介護計画に反映している。また、モニタリングの時期など明確にする事で、定期的な見直しを行っている。あまり変化のない場合は、利用者とのコミュニケーション増加を計画し、小さなサインを見逃さず、計画に反映させるよう努力している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、バイタル測定、体温、脈拍、食事、水分量、排泄等、身体的状況、及び、日々の本人の言葉やエピソードを記録している。いつでも全職員が確認しており、情報の共有に役立っている。個別記録を基にケアプランの見直しに役立っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思いや状態、家族の意向に配慮しながら送迎等、必要な支援は柔軟に対応し個々の満足度を高めるよう努力している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望や体調に応じて、関連施設に毎月来る出張理容サービスを利用している。食材に関しても他施設の事業を活用している。		

外部評価結果(グループホーム塩田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の思いを受け止められる関係作りが出来ている。希望に合わせた支援をしている。	かかりつけ医については、入居時に本人や家族の希望を確認し決めている。併設している医療機関は安心感があるが、あくまでも利用者の希望を優先したかかりつけ医となっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の看護師が全利用者の把握をしており、必要に応じて、いつでも適切な受診や看護が受けられる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人内の医療機関との連携は密にとれており、夜間帯の急変時に対しても、敏速な対応がとれる。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会の機会に個々にご家族と話し合いを行い、十分説明し、納得されたうえで方針を共有している。	家族会にて、重度化や終末期について話し合い、意向の確認を行っている。しかし、終末期における施設側の対応について指針が明確ではないため、これからも利用者や家族との話し合いは必要である。	重度化や終末期に関する施設としての指針を作成し、できれば書面にて意向の確認を行えるような体制の整備が望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣に病院があるものの、今後もう一度見直し、定期的研修に参加する機会を増やしていく必要がある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練は定期的に行っている。しかし夜勤帯は職員が一人体制の為、近隣の方々と常に協力体制をとる必要がある。	年2回の防災訓練は消防署の協力により、併設施設と合同で行っている。火災報知器や緊急時の連絡対応、施設レイアウトから出火に関する予測や避難方向について職員は理解している。	夜間は一人体制となり、不安を感じている。夜間を想定した訓練や、避難手法など災害を想定した訓練が求められる。また、早急に近隣住民との協力体制及び情報交換を進めていくことが求められる。

外部評価結果(グループホーム塩田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時もご本人の気持ちを大切に考え、さりげなくケアを心がけている。又、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	一人ひとりの人格を尊重した声かけや支援に努めている。また、記録開示の可能性から、記録に登場する他の利用者は記号化しプライバシーの保護を実践している。	自分では配慮しているつもりでも、できていないこともあります。ケアの質を高めるために、接遇研修を取り入れ、利用者との対応についてフィードバックができる機会が望まれる。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、又、表情やしぐさを読み取って些細なことでも本人が決める場面を作るよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている。その日の体調、様子を見ながら本人の希望に沿った個別対応もしているが、入浴や行事等スタッフの都合で決める事も少なくない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に着衣はご本人の意向で決めており、見守りや支援が必要な時は手伝うようにしている。自己決定がしにくい利用者には職員と一緒に考え、アドバイスをして本人の気持ちに添った支援を心がけている。又、日頃からお洒落や化粧を楽しんでもらえるように取り組んでいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けや食器拭き、お茶入れ等職員と一緒にやっている。又、利用者と同テーブルで会話を楽しみながら楽しく食事ができるよう雰囲気作りも大切にしている。	食事時間は、利用者と職員と一緒にテーブルを囲み会話を楽しんでいる。食事内容や調理について利用者の希望を取り入れたメニューとしている。今後の取り組みとして、食事メニューの映像化も準備している旨を伺った。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量は摂取量の記録により全職員が把握し、量の加減も調整している。又、水分摂取量の少ない方には、摂取していただけるような工夫を凝らした対応をしている。又年一度関連施設の管理栄養士が栄養バランスチェックを行っている。		

外部評価結果(グループホーム塩田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に合わせて、ケアをしている。又、歯科衛生士の指導を受け、口腔内の清潔の保持や口腔体操も取り入れて健康管理に努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながら、利用者の様子から敏感に察知しトイレ誘導をしたり、ご本人の求めに応じて支援している。又、リハパンから布パンツを使用していける状態に支援し本人の不快感を軽減できるように努めている。	ケース記録に、排泄に関する内容が記録されている。これを基に、職員が一人ひとりを観察し、トイレ誘導などを的確に行っている。紙おむつから布パンツへ変更し、トイレで排泄できる改善の様子が伺えた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より牛乳やヨーグルト、食物繊維の多い食材を提供している。毎朝、体操を行い自然排便を促す工夫をしている。便秘症の方には個々の状態に合わせて下剤の使用量、頻度の調整をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の体調や入浴希望に応じ入っていただいている。ゆったりと楽しく入浴できるよう、仲の良い方同志と一緒に、ゆっくり浸かりたい人には順番の工夫を、入浴を拒む人には言葉かけや対応の工夫をしているが、入浴時間についてはローテーションの都合で入っていただいている。	昨年までは、1日に9人の入浴を行っていたが、利用者が入浴時間に満足していない、次ぎに入る人のことを気遣っている。職員も急がせてしまっているのではないかと職員からの意見があった。入浴人数を減らすことで、回数は減るが入浴時間楽しんでいただけるように変更した。入浴を拒む人にも無理強いせず、時間をおき、観察しながら再度声かけをしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。又、一人ひとりの体調や表情、希望に合わせてゆっくり休息が取れる様支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員がしており、薬を手渡し飲み込むまで見守りしている。月/1度定期受診の時には利用者の日常の状態の変化を伝え服薬の調整をする等、医療との連携をとっている。		

外部評価結果(グループホーム塩田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう支援している。お願いできそうな仕事を頼み、必ず感謝の言葉をお伝えしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方と定期的に外出されている利用者もおられる。又、全員でドライブへ行ったり、暖かい日はホームの周辺を散歩したり戸外の空気を吸ってストレスの発散にも心がけている。	ニュースなどから、現在の社会情勢や季節の情報を分かりやすく利用者に伝えている。このことは利用者の外出の希望につながり、その希望に応じて、外出支援を行っている。(外出をしたい気持になるような支援が行われている)	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての利用者ではないが、ご家族の理解のもと、事業所がお金を管理している。日用品購入等職員が代行してしまう事が多いが、バザーの時には自分の好きな物を、本人が直接買ったり支払ったりする事を支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙が届いたときはお部屋へお持ちし読んでいただく等、プライバシーの配慮をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾ったり、全員で手掛けた作品など展示したりしている。又、季節の移り変わりを感じていただく為に月行事の飾りつけなどもしている。	共有空間には、利用者全員で作ったちぎり絵(富士山の絵)や雛人形などを飾り和やかな雰囲気であった。また廊下にも、利用者の作品(刺し子や押し花)が飾られていた。行事のパネルは、利用者の笑顔の写真が多く、楽しい時間を思い出すことができるものであった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファを置き、一人で過ごしたり仲の良い入居者同士と一緒にくつろげるスペースがある。		

外部評価結果(グループホーム塩田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や調度品、写真や思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地の良さに配慮している。持ち込みの少ない方は本人と職員の相談のもと居室の雰囲気作りに努めている。	部屋は広く余裕があるため、比較的大きな椅子や家具・仏壇等おかれている部屋もあった。利用時の持ち物リストに「今まで使用していたお気に入りの品々」と具体的に記載されていることから、遠慮することなく居室を自分の空間として利用者家族が演出することができている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の目線に合わせた位置に名前を貼ったりトイレが分かりやすい様、大きく昔の呼び方で書いて表示している。居室入り口のカーテンは個々で用意していただき、カーテンの色や柄で自分の部屋だと分かる工夫をしている。		